



Library Liébana

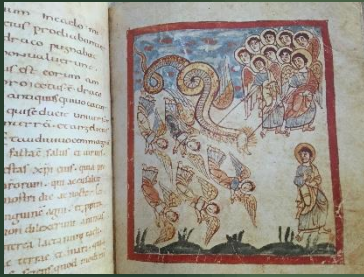
2023年6月度展示内容のお知らせ

【今月のベアトゥス写本】

今月は、ベアトゥス写本群の前後の時代の挿絵入り黙示録写本も一緒に展示し、黙示録写本の大きな流れを見てみたいと思います。

【ベアトゥス黙示録写本以前の写本】

【ベアトゥス黙示録写本以後の写本】



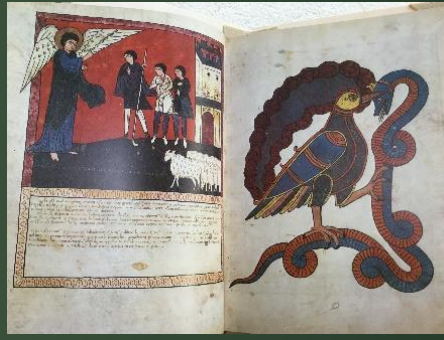
(9世紀初め
トリーア黙示録写本)

(9世紀初め
ヴァンソニエヌ黙示録写本)

(13世紀後半
トリニティ黙示録写本)

(13世紀後半
ドゥース黙示録写本)

【ベアトゥス黙示録写本群から 10世紀から12世紀】



(10世紀中頃
エスコリアル写本)

(10世紀後半
ジローナ写本)

(11世紀中頃
サン・スヴェール写本)

(12世紀後半
ライランズ写本)

ファクシミリ本でみるスペイン黙示録の世界 中世彩色写本を紹介

Google Map



愛知県豊田市西町5丁目5
VITS豊田タウン B1F
(西町5丁目北交差点の
外側階段を降りて下さい)
10:30~17:30

6月の開館日(予定)
日・水・木・金曜日
(HPで確認下さい)

							6月		
日	月	火	水	木	金	土			
28	29	30	31	1	2	3			
4	5	6	7	8	9	10			
11	12	13	14	15	16	17			
18	19	20	21	22	23	24			
25	26	27	28	29	30	1			

ファクシミリ本とは：
オリジナル写本の大きさや色を再現。
特に羊皮紙の厚みやしわも忠実に
再現した複製本も多数展示しています。



H.P.



Instagram



6月11日(日)、25日(日)はお休み。
6月2日(金)は15:30開店、
8日(木)・22日(木)は13:00開店。

ベアトウスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトウス(ベアト Beato ? -798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトウス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22 写本、断簡の写本が7写本あります。

本ライブラリーには完本22写本のうち19写本のファクシミリ版があります。ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書きなどをそのまま再現した精巧なものもあります。

1000年近く前に作成された写本の当時の雰囲気味わってください。

今月の展示写本

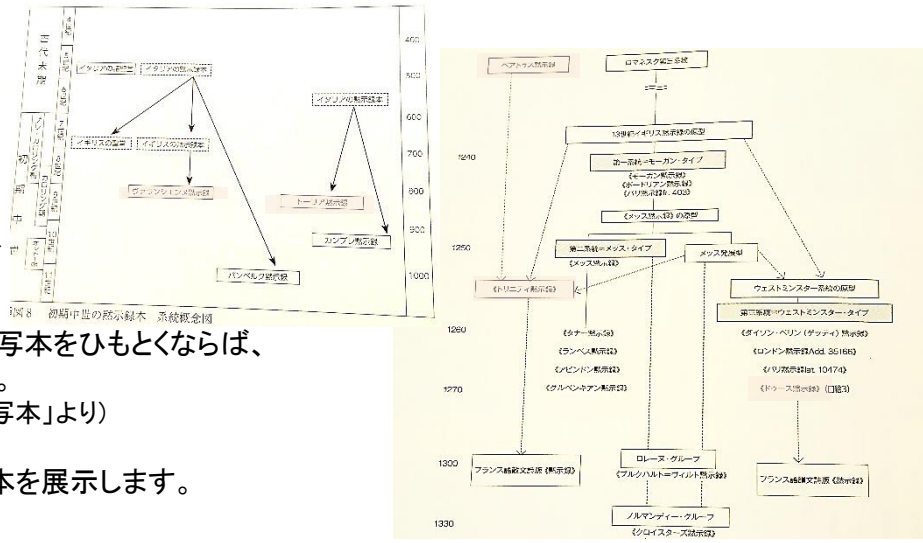
『黙示録』写本の中で、とりわけ重要な3つの系譜があります。

それらは4、5世紀に誕生し、9、10世紀まで盛んに制作された初期中世黙示録写本群と、9世紀から13世紀にかけて興隆したベアトウス黙示録写本群、そして13世紀にイギリスに端を発する英仏『黙示録』群です。

それぞれ際立った特徴をもつこれらの黙示録写本をひもとくならば、中世の美術の流れを一望することができます。

(田中久美子「世界でもっとも美しい装飾写本」より)

今月と来月はそれぞれの時代の代表的な写本を展示します。



【ベアトウス黙示録写本以前の黙示録写本】

(トリーア黙示録写本)

9世紀初期(800年頃)制作された、挿絵入り黙示録写本で残存する一番古い写本。75葉の羊皮紙に74の挿絵が全頁大でカロリング朝様式で描かれています。

(ヴァランシエンヌ黙示録写本)

9世紀初頭(第1四半期)にフランスあるいはドイツで制作されたカロリングスタイルの黙示録写本で、トリーア黙示録写本とともに残存する最初期の挿絵入り黙示録写本。

【ベアトウス黙示録写本以後の黙示録写本】

(トリニティ黙示録写本)

13世紀半ばに英仏で流行した黙示録の中でも特異な位置にある黙示録。当時の写本としては大判(435×320)の写本で、豪華絢爛に彩色されていることから、高貴な身分の人に献呈されたと考えられる。

(ドゥース黙示録写本)

13世紀から14世紀に英仏で多く作られた黙示録写本の系統の一つです。

未完の写本のため、彩色途中の挿絵が多数あり、当時の彩色手順などがよくわかる写本です。

【ベアトウス黙示録写本群から】

(エスコリアル写本)

950年頃にサン・ミジャン・デ・ラ・コドーリャ修道院で制作されました。ここではほぼ同時期にいくつものベアトウス写本が制作されました。青や赤はあまり使用されず、代わりに黄色や泥がかかった茶色・ダークグリーンが使われています。

(ジローナ写本)

写本の最後の署名から、976年7月6日におそらくタバラの修道院で完成しました。挿画はエメテリウス(タバラ写本も制作)とエンが行いました。エンは女性名で修道女と考えられます。

(サン・スヴェール写本)

ベアトウス写本の中で唯一ピレネー山脈を越えたフランスの修道院で制作された写本。11世紀中頃の作品。挿絵は2頁大の挿絵が5点、全頁大が36点あります。モサラベ様式の中にロマネスク様式がまざった挿絵が見られる。

(ライランズ写本)

ほぼ完全な状態で保存されてきた数少ない写本です。後期カロリング文字が2列に書かれ、110点の挿絵が金銀で鮮やかに彩られています。12世紀後半の写本で、ベアトウス差本群のなかでは後期の大型写本。